

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290900669		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら船橋宮本(1階)		
所在地	千葉県船橋市宮本8-1-22		
自己評価作成日	平成28年12月25日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お客様・職員ともに笑顔が多い。職員のスキルアップ。
---------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成29年1月18日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年度地域との交流充実に前向きに取り組み、地域のふれあい喫茶に利用者と出かけ交流を深めたり、小学校の運動会の見学、近隣デイサービスセンターのそば打ち体験への参加を通じて、地域との交流が深まり、ホームの知名度も向上しています。さらに、今年度11月の介護の日には、地域の方を対象としたホーム内でのイベントを企画し、ホームの機能や専門性の還元につなげる事ができました。地域とも日頃から良好な関係を築くことができ、地域の方もホームに気軽に足を運び、地域の行事を知らせてくれるようになるなど、地域向けのイベントや地域行事への参加を通じて地域との交流が年々深まっています。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎日申し送りの際行っています。	会社が掲げる企業理念、7つの行動指針のうちいずれかを朝礼時に唱和をし、職員の理解を深めています。また今期のスローガンとして「指示待ちではなく自ら考え動こう」を事業計画書に掲げ、年度当初の全体会議で職員に周知しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	敬老会は地域の方との交流として大神宮会 会場所へ行きました。	地域との交流では、地域のふれあい喫茶に利用者 と出かけ交流を深めたり、近隣小学校の運動会の見学、近隣デイサービスセンターのそば打ち体験への参加を通じて、多くの地域の方と交流が深まるように取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内にてオレンジリングの講習を受けました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回ご家族のご意見を取り入れ今後のユニットサービスにつなげています。	会議には、利用者代表、家族、民生委員、地域包括支援センター、在宅介護支援センターの参加を受け2ヶ月に一度定期的に実施しています。会議ではホームの現状の報告や参加者からの意見を参考にサービス向上につなげていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小学校の運動会、公民館の催しものに出席、参加しています	運営上の疑問点等が生じた際には、市の指導監査課の担当者にお問い合わせをし、指示を仰ぐようにしています。ホームからの質問には丁寧に応えてくれるなど、協力関係を築き運営を進めることができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指 定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1月、9月に施設内で行われる研修にて再度学んでおります。	年2回ホーム内で虐待防止研修を実施し、その中で身体拘束や利用者への対応、声かけについて等を確認しています。現状玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例の発生はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の小さな言動から虐待につながってしまう事もあるため注意を払っています。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	小さな出来事もお伝えし、確認を取りながら相談をしています。後見人制度については資料を読む、わからない事は管理者に聞き勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の疑問、貴重な意見を聞きホーム長にお伝えし理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1家族の意見でも貴重な意見とし、他ご家族様入居者様に反映できるように努めています。	家族からの意見や要望については面会時に直接確認しています。また今年度は8月と12月に家族会を開催し、意見や要望等を表出できる機会を設けています。年間を通して家族からのクレームは無く、良好な関係を築けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を作り反映させている。	ホーム長は定期的に職員と面談を行い、業務や支援を通じての意見や要望、今後取り組んでみたい事等を確認しています。また会社全体としてのホットラインや社長へのダイレクトボックスなどを通じて意見を表出できる機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、実績を把握し職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアと力量を把握し研修を受ける機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、ネットワークづくり、勉強会を行っています。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事様子をよく観察をしより良い関係安心の確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの小さな疑問要望を常に書留少しでも寄り添った支援に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	場面ごとにご家族の要望の軽重に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中でのお互いの関係に小さな出来事も見逃さずによりよい暮らしができるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の両方の意見を聞きお互いよい環境になるよう家族からの言葉を大切に支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの友達から連絡があったときなどすぐに報告しています	利用者本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように、家族からも利用者から以前の情報を収集し、これまでと変わらぬ生活が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されている利用者様にはより声掛けを大事にし一人に」ならない、させない介護に努めています		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了してしまったご家族から相談がある場合は相談支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思い、希望を大切にしよく話をすることで意志を確かめそのものに近づく様努力しています。	利用者の思いや意向については、日常会話の中から収集し、本人本位に検討しています。またケアプランの作成、更新時にはアセスメントを行い、利用者の現状や課題、思い等を収集し、ケアプランに反映しています。	ケアプランの更新の際にはアセスメントを実施していますが、利用者の状態をより詳細に確認するためにも、利用者の日常生活動作状況についても定期的な確認が望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴、暮らし方について入所前の記録をよくよみ、ご家族様からもよく伝えていただき把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身に状態などよく観察をし現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで月1回モニタリングを行っていません。変動する事からチームの考えを話し合い介護計画につなげています。	アセスメントで得た情報を踏まえ、担当者会議において職員の意見を集約しケアプランを作成しています。ケアプラン作成後は家族に同意を得ており、目標の進捗については毎月のモニタリングで確認しています。	ケアプランの作成および更新にあたっては、担当者会議を実施し職員の意見を集約していますが、今後に向けては主治医や看護師の見解も入れ多職種連携でケアプランが作成できる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の言動、職員の接し方を記録に残し以降の支援、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	場面ごとに違うニーズに対応し上司に相談連絡をしながら対応しています。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人にあわせた状況づくりを念頭にいれ支援提供をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意見をよく聞き医師の考えと合わせながら本人にあった医療を受けられるようにしています。	提携先医療機関とは月2回の往診を通じて連携を図るほか、24時間のオンコール体制を築き、体調変化時には迅速に対応できる体制としています。また、週に一度訪問看護も来所され、利用者の健康状態を確認しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	観察から小さな気づきも大切にし報告連絡相談をして適切な受診・看護を受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子その時の治療など医師・看護師から情報を聞き退院後の支援につなげる様医療との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの方向を確認する事で介護の仕方、事業所でできる事をよく話し合い共有し、支援に努めています。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	おきるであろう急変・事故に備えて時間を設け研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回消防訓練・避難訓練を行っています。	年2回避難訓練の計画を立て、7月には消防署立会いの下での総合訓練を実施しています。また毎月各ユニットで自主訓練を実施しています。災害に備え備蓄品の保管や地震や水害を想定したフローを事務所に掲示しています。	今後に向けては、地域の協力体制を確保すると共に、災害時において、利用者の安否をどのような手段で家族に報告するのか、より明確になる事を期待します。

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム全体で言動、言葉かけについて個人の人格を大切に個人にあった言葉かけを対応しています。	年2回ホーム内での虐待防止研修を通じて、利用者への言動や行動等を振り返る等、ホーム全体で意識高く取り組んでいます。トイレ誘導の際の声かけや居室への入出時にも羞恥心やプライバシーに配慮し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思い希望を大切に、自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人がどのような暮らしを求めているのかを良く知るうえで希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOに合わせた服装、おしゃれ心を大事にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに参加していただき利用者様のできる範囲で片付けをしています。	食事作りも支援の一環として捉え、食材の買い物や食事の準備、後片付けには利用者も主体的に関わることができるように支援しています。食事を楽しむ工夫では、ホテルランチなどの外食に出かけたり、法人所属のシェフによる出張シェフも行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態で支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内を清潔に保つため口腔ケアをしています。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄のリズムを知る事により排泄の自立にむけた支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。トイレでの排泄を基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のリズムをしる事により、個人に応じた排便予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望やタイミングに合わせた入浴をしています。	入浴については体調を考慮し、週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。12月のゆず湯や5月の菖蒲湯等の季節風呂も取り入れ、入浴が楽しめるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムに合わせた睡眠と個人が安心して快適な休息ができるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作り服薬の目的・副作用また服薬後の症状の変化確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで生活してきた中で趣味、嗜好品を本人とご家族にきく事から継続できるものは継続し楽しんでいただける様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を重視し外出・外食をしたり地域で行うイベントに参加しています。	天候や気候の良い時にはホーム周辺の散歩にお連れしています。食材の買い物にも利用者も同行しているほか、お花見や近隣神社のお祭り、地域のふれあい活動等の地域の行事にも参加をし利用者の活動性を高めています。	



グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様と一緒に買い物し精算する際はお金の管理をして頂くなどし支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を重視し電話を掛けたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の工夫をし証明、音、温度、光など考慮して環境づくりをイ行っています。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと話ができる空間をつくり、ほっと過ごせる場所を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向を大事にし住みやすい環境、部屋の配慮を行っています。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の今できる事を大切に安全で自立ができる様工夫しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290900669		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら船橋宮本(2階)		
所在地	千葉県船橋市宮本8-1-22		
自己評価作成日	平成28年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成29年1月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お客様・職員ともに笑顔が多い。職員のスキルアップ。
---------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年度地域との交流充実に前向きに取り組み、地域のふれあい喫茶に利用者と出かけ交流を深めたり、小学校の運動会の見学、近隣デイサービスセンターのそば打ち体験への参加を通じて、地域との交流が深まり、ホームの知名度も向上しています。さらに、今年度11月の介護の日には、地域の方を対象としたホーム内でのイベントを企画し、ホームの機能や専門性の還元につなげる事ができました。地域とも日頃から良好な関係を築くことができ、地域の方もホームに気軽に足を運び、地域の行事を知らせてくれるようになるなど、地域向けのイベントや地域行事への参加を通じて地域との交流が年々深まっています。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社で作成された理念をもとに朝礼時読み上げ等おこなっていて、理念を共有し実践につなげている。	会社が掲げる企業理念、7つの行動指針のうちいずれかを朝礼時に唱和をし、職員の理解を深めています。また今期のスローガンとして「指示待ちではなく自ら考え動こう」を事業計画書に掲げ、年度当初の全体会議で職員に周知しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月に一回ボランティアさんに来ていただいたり、船橋市・宮本地区の行事に参加している。	地域との交流では、地域のふれあい喫茶に利用者とは出かけ交流を深めたり、近隣小学校の運動会の見学、近隣デイサービスセンターのそば打ち体験への参加を通じて、多くの地域の方と交流が深まるように取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際に認知症の方についての理解度や支援方法について地域の方々に活かされていない。今後さらに取り組んでいく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、ホームの取り組みや行事等の活動報告をしている。また出席者のご意見やご指摘をもとにサービス向上に活かしている。	会議には、利用者代表、家族、民生委員、地域包括支援センター、在宅介護支援センターの参加を受け2ヶ月に一度定期的に実施しています。会議ではホームの現状の報告や参加者からの意見を参考にサービス向上につなげていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政・居宅・グループホーム連絡会を中心に実績やホームの取り組み等を報告し協力関係を築いている。	運営上の疑問点等が生じた際には、市の指導監査課の担当者に問い合わせをし、指示を仰ぐようにしています。ホームからの質問には丁寧に応えてくれるなど、協力関係を築き運営を進めることができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・リーダーを中心に職員に身体拘束をしない、ケアに取り組んでいて9月にも施設研修を行っている。1月にも再度研修予定で組み込んでいる。	年2回ホーム内で虐待防止研修を実施し、その中で身体拘束や利用者への対応、声かけについて等を確認しています。現状玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例の発生はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、施設全体で研修等を通じて虐待防止に取り組んでいる。また現場でありがちなスピーチロックがないように各職員に促している。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームのお客様でも数名いらっしゃるので成年後見人制度について勉強している。またご家族様の相談等にも乗っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点がないか？都度聞きながら契約や解約についての説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様の意見や要望を真摯に受け止め各職員にもお伝えし、玄関等にいつでも閲覧できる状態にしている。	家族からの意見や要望については面会時に直接確認しています。また今年度は8月と12月に家族会を開催し、意見や要望等を表出できる機会を設けています。年間を通して家族からのクレームは無く、良好な関係を築けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議を中心に職員の意見も反映しながらホームの運営に取り組んでいる。会議の場以外でもいつでも言えるような雰囲気作りをしている。	ホーム長は定期的に職員と面談を行い、業務や支援を通じての意見や要望、今後取り組んでみたい事等を確認しています。また会社全体としてのホットラインや社長へのダイレクトボックスなどを通じて意見を表出できる機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の努力や勤務状況を把握・見極めた上でより向上心が持てるよう積極的に登用試験の推薦を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・船橋市の外部研修を中心にケアの質向上に取り組んでいる。また業務中気付いた点があれば積極的にアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営部内の研修・本部研修・親睦会を含めた企画に参加し勉強会や交流する機会を作りサービス向上を図っている。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に伴い不安や不満があると思うので職員が傾聴し本人が安心するためにコミュニケーションを積極的に図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っている事や要望をお聞きし、ご家族様とのコミュニケーションも積極的に図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様がその時必要としている支援を見極めたり、お聞きしケアプランに反映させ対応に努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にも認知症対応型共同生活介護という点を意識してもらいそのサービスに合わせた関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のがいつでも連絡取れる体制を取っている。またご本人様の悩みを職員が御家族様に都度報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にされていた関係者の方にもいつでも会えるよう常に面会はオープンにしている。	利用者本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように、家族からも利用者から以前の情報を収集し、これまでと変わらぬ生活が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には何かを皆様と一緒にやることを心掛けている。一人の時間が必要な場合はお部屋でゆっくりして頂いている。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時または未契約になってしまった場合でも必要に応じて相談等対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活に支障がない範囲で一人ひとりの思いや希望・要望に努めている。	利用者の思いや意向については、日常会話の中から収集し、本人本位に検討しています。またケアプランの作成、更新時にはアセスメントを行い、利用者の現状や課題、思い等を収集し、ケアプランに反映しています。	ケアプランの更新の際にはアセスメントを実施していますが、利用者の状態をより詳細に確認するためにも、利用者の日常生活動作状況についても定期的な確認が望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にアセスメントシートを活用しながら生活歴・環境これまでの暮らし方についての把握に努めている。またコミュニケーションの中で情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	既往歴を把握した上でその方に合わせた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月必ずユニット内での会議にてモニタリング等を行っている。またご本人様や御家族様と密に話し合い、意見等反映し介護計画を作成している。	アセスメントで得た情報を踏まえ、担当者会議において職員の意見を集約しケアプランを作成しています。ケアプラン作成後は家族に同意を得ており、目標の進捗については毎月のモニタリングで確認しています。	ケアプランの作成および更新にあたっては、担当者会議を実施し職員の意見を集約していますが、今後に向けては主治医や看護師の見解も入れ多職種連携でケアプランが作成できる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ご利用者様の様子や気付いた点を介護記録に記入し、職員間で情報の共有を図っている。また伝達ノートを活用し漏れが無いように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的にはケアプランに沿った支援を行っているが柔軟に対応し、その日、その時のニーズに合わせたサービスを提供している。		

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが心身に負担のない範囲で対一を基本に、毎日外出支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一度受診を勧めご本人及び御家族の希望が聞かれた際は提携の医院に	提携先医療機関とは月2回の往診を通じて連携を図るほか、24時間のオンコール体制を築き、体調変化時には迅速に対応できる体制としています。また、週に一度訪問看護も来所され、利用者の健康状態を確認しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気付き、状態の変化を週一回来る訪問看護師にお伝えし適切な対応や受診を受けられるような形を取っている。訪問看護記録も備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、認知症の症状も進む可能性が高い為、病院先に許可を得た上で毎日病院先に訪問している。その際に病院と情報交換をし職員に共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でサービス担当者会議等開催しご本様・御家族様の希望を確認した上で事業所で可能な範囲要望に沿った支援を行っている。その際御家族様の精神面もサポート出来るように声掛け等工夫しながら支援を心掛けている。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明し「医療連携体制加算同意書」を交わしています。ホームでは主治医、訪問看護、家族等と連携し、終末期ケアまで対応する体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生に時に対応できるよう施設内研修を通して訓練を行い実践力を身につけている。またあわてない様にマニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月タイムを計りながら避難訓練を行っている。都度職員は勿論、ご利用者様も注意するポイント等お伝えしている。	年2回避難訓練の計画を立て、7月には消防署立会いの下での総合訓練を実施しています。また毎月各ユニットで自主訓練を実施しています。災害に備え備蓄品の保管や地震や水害を想定したフローを事務所に掲示しています。	今後に向けては、地域の協力体制を確保すると共に、災害時において、利用者の安否をどのような手段で家族に報告するのか、より明確になる事を期待します。

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室のユニット型にて運営。一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けを徹底している。また排泄面でもプライバシーに配慮し対応している。	年2回ホーム内での虐待防止研修を通じて、利用者への言動や行動等を振り返る等、ホーム全体で意識高く取り組んでいます。トイレ誘導の際の声かけや居室への入出時にも羞恥心やプライバシーに配慮し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定出来る様に〇〇にしますか？どうしますか？等ご本人が選択が出来るような声掛けを行い、自己決定を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務都合にならない様に各ご利用者様のペースに合わせてその日をどのように過ごしたいか？何を望んでいるのか？職員とご利用者様が一緒になって相談し毎日を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から愛用していた洋服を御家族様にお持ち頂いたり、一日のメリハリをつける意味でも、起床時から整容・洗顔を行い外出時は特にお洒落着が着られるように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番お食事が楽しみなので、一人ひとりの好みをお聞きした上で職員が献立を作成している。職員本位にならない様に毎食、料理の準備から片付けまでご利用者様と一緒にやっている。	食事作りも支援の一環として捉え、食材の買い物や食事の準備、後片付けには利用者も主体的に関わることができるように支援しています。食事を楽しむ工夫では、ホテルランチなどの外食に出かけたり、法人所属のシェフによる出張シェフも行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みをメインに考え野菜を多めに彩り、塩分等に注意しながら食事を提供提供している。また食事の時だけでは水分量が少ない為、10時・14時・15時・入浴者には入浴後に水分を提供し、一日の水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員口腔ケアを行っている。自立の方が殆どで基本的にはご自身で行っているが介助が必要な方は一部介助を行っている。唾液の分泌を促すためにも毎食事前に「パタカラ」体操等を行っている。誤嚥性予防にも努めている。		



グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	D-3シートを基準に職員で情報共有を行い、一人ひとりの排泄パターン把握に努めている。排泄に関しても日中は定時のトイレ誘導ではなく、「トイレに行かれますか？」等選択を促している。	利用者一人ひとりの排泄状況は「生活リズム・パターンシート」に記録し、職員全体で共有しています。トイレでの排泄を基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響について勉強会を開いた。飲食に関しても食物繊維をなるべく提供したり、バナナジュースや乳酸菌が入っている物を多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様から私は何曜日にお風呂？聞かれることが多く職員も昨日誰が入浴して等混乱が見られ両者共に曜日固定の希望が聞かれた為現在は基本的に入浴日は固定で行っているがその日の要望や体調等個々に合わせている	入浴については体調を考慮し、週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように支援しています。12月のゆず湯や5月の菖蒲湯等の季節風呂も取り入れ、入浴が楽しめるように取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の疲労度、体調不良等普段と少しでも違った様子の変化を見逃さず職員が対応しベットで少し休んで頂いたり安眠出来る様に声掛けに気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬をより把握するためにも一覧表にし、まとめて保存している。服薬後の症状や変化を見逃すことがないよう努めている。8月には提携している薬局による研修も実施した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせて貼り絵等行い季節感を感じて頂ける様に心掛けている。その方の残存機能を活かし出来るところまでの役割を与えられるように職員が間に入りサポートしている。全員が出来ない物も中にはあるので個々に提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には雨や感染症の流行時を除き毎日全員散歩に行かれるよう支援に努めている。ご利用者様のご希望を把握し、普段行けないような場所は行事計画とし計画を立てた上でなるべく全員が行けるよう支援に努めている。	天候や気候の良い時にはホーム周辺の散歩にお連れしています。食材の買い物にも利用者も同行しているほか、お花見や近隣神社のお祭り、地域のふれあい活動等の地域の行事にも参加をし利用者の活動性を高めています。	

グループホームきらら船橋宮本(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時にまずご家族様に確認する。紛失時の事も含めご了承が得られれば、ご自身で個人の財布は管理している。職員と買い物時ホームの運営費をお渡しし職員見守りの元、ご利用者様にお支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望時、職員に一声掛けて頂ければご自由にホームの電話をお貸ししている。携帯の持ち込みをしている方も居るのでご自由に使用して頂いている。手紙に関してもご希望があれば購入し郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は緑をテーマに設定し共用の空間がご利用者様にとって不快や混乱を招かない様に光・音・温度等調整し心掛けています。また上記レクで仕上げた作品を展示し季節感を取り入れ、居心地良いと思える場所に工夫している。	利用者が集うリビングルームは華美な装飾は避け、季節の花を飾り、家庭的で季節感が感じられる雰囲気を保っています。浴室やトイレなども清潔に保ち、転倒の危険になるものは放置せず安全面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席・大テーブル・小テーブル等様々な状況に合わせて配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様と相談した上でなるべく使い慣れた馴染みのある家具・寝具・写真等お持ち頂いてご本人が混乱を招かない様に落ち着いた空間で以前の生活と変わらない様に居心地良く過ごせるような工夫をしている。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ない事」ではなく、その方の持っている残存能力に合わせ「出来る事」を活かし安全かつ本人本位の自立した生活を送れるように自立支援や個別支援を中心に支援をさせて頂いている。		